

極超高効率回転モーターの開発

(ウルトラ ロータリー モーター)

今回、『福島新エネルギー社会構想』、再生可能エネルギー産業フェア、開催に当り、2011年東日本大震災の傷跡が未だ残る、この地で、『未来を創る新たなエネルギーの先進地へ』という、キャッチフレーズのもと、弊社が参加させて頂く事に感謝致します。

そもそも、約150年前に、電気が発明されて以来、蒸気機関やガス灯の時代から、電気の時代へと人類の社会文明が急速に発展して来ました。現在では、あらゆる集合体(国家、企業自治体、住民の生活)を動かしているのは、まぎれも無く電気エネルギーです。

しかしながら、20世紀における産業革命以降、風力や水力の原始的利用を除けば、多くの科学者による化石燃料を使用する動力機関の発明は、文明社会に偉大な革命を興しました。その過程では、化石燃料の争奪による国家間戦争、有限である化石燃料の代替としての原子力発電など、様々な問題が世界中に起きています。

その結果として、下記の点において、人類の負の遺産として残されつつあり、世界的にその対策が求められています。

① 地球温暖化防止対策	② 将来の原子力放射能汚染対策
③ 火力発電所のCO2排出削減対策	④ 再生可能エネルギー使用拡大対策

21世紀に入り、京都議定書COP3をスタートさせて以来、国連気候変動枠組条約においてCOP23では、世界196ヶ国+EU諸国が「パリ協定」でCO2排出削減策に同意しています。そして、12月、ポーランド、カトワイスにおいて、COP24が開催されます。上記の対策を推進するために、世界中が下記の点で技術開発努力をしています。

① 化石燃料の燃焼効率化	② 原子力発電の停止、又は拡大、
③ 太陽光の拡大、風力の海洋浮上式等	④ 水素燃料電池の開発、
⑤ 核融合エネルギーの開発、	⑥ 蓄電池の開発競争、

現在も、これ等のエネルギー生産性を省みず、開発競争が繰り広げられているが、新技術にはそれぞれ問題があり、OECD/IEA(世界エネルギー機関)が以前より提唱している、**S+3E**を満足させるものではありません。

① 安全性 Safety	② 安定供給 Energy security of supply
③ 経済的効率性 Economic efficiency	④ 環境保全 Environmental protection

弊社は、約10年間の研究開発の結果、この S+3E を満足させる、極超高効率の回転装置を開発致しました。すでに、日本、USA、シンガポールの特許を取得済みです。今ここに、弊社は、上記の問題の解決方法として、新エネルギーを提案いたします。それには、エネルギー源として、尽きる事の無い、無尽蔵に供給でき得る、「自然エネルギー」であります。装置の概要について、下記の通り、A. -F. で具体的に説明します。

A. その自然エネルギーとは、、、

- ① 風力、太陽熱/光、落下する水力と同様に、無尽蔵である重力エネルギーを回転体に適用し(回転体の偏重心作用)、及び、鉱物と金属による共振現象エネルギーの合体エネルギーです。
- ② この新しいエネルギーを利用して、極超高効率回転装置を開発した事が最重要点です。
- ③ このモーターの範疇に入る回転運動を、発電機に連結すれば、電気を創る事ができます。回転動力として、直接利用すれば、エンジンの代替として、車両動力(ガソリン不要、蓄電池不要、次世代乗物など)として応用でき、今後の更なる技術開発により、21世紀での用途は無限に拡大します。

B. 発電機に連結した場合の用途。

タイプ	発電出力	用 途
小型（重力と共振現象合体）	1－50kwh	全ての車両、住宅、店舗、小工場 漁船ほか
中型（重力と共振現象合体）	100－200kwh	店舗、病院、工場、船舶 円盤飛行機、電車他
大型（重力と共振現象合体）	300kwh以上	発電所（数セット設置）、大型工場 大型店舗他 新興国の離島、農村地帯の発電所 等

※ 回転モーターのサイズを変える事により、1kwh－1000kwhまで対応できる。

C. 今後の電力事情の激変。

近年に至っては、電力激変を起こすための現象が、全世界で着々と進行している。

①	デジタル化	AIやブロックチェーン技術を活用した電力の新取引が推進されている。
②	脱炭素化	化石燃料による発電を減らし、CO2削減目標を各国が自ら設定して「パリ協定」を遵守する責務がある。
③	電力の分散化	既存の送電線網での電力需要/供給システムを改め、再生エネルギーを利用した、小規模な分散型エネルギー配電システムに移行する。
④	電力自由化	電力会社による地域独占の規制が無くなり、参入企業が増えて、電力産業自体間での競争が熾烈になる。
⑤	ZEV化	ゼロエミッション自動車（CO2排出ゼロ）としての、電気自動車の普及が急速に進む。自動車産業の変化と部品メーカーの将来性危機。
⑥	ZEH化	ゼロエミッション住宅（CO2排出ゼロ）の推進。現在は、主として太陽光パネルの設置が普及している。

上記の出力別用途を適合させると、この電力激変にすべて対応できる事となります。

D. この極超高効率回転モーターの特徴。

①	重力とは万有引力の法則によると、物体が落下する時質量に加速度を与える事を意味する。
②	宇宙には、質量のある物体に対して、重力（引力）のある場と無重力場（衛星）があり、この相反する場を瞬時に繰返し、質量をアンバランスにする事で継続回転運動が可能になります。
③	このアンバランスにするための補助的役割が、鉋物と金属の共振現象エネルギーです。
④	この結果、入力は1N・m（ニュートンメートル）に対し、全体の出力は15-20N・m可能です。
⑤	この回転体のサイズ直径（10－400cm）、重量（5－1000kg）、回転速度（500－100rpm）と変化させる事により、発電機と連結すれば、1－1000kwhの電力を得る事になる。
⑥	発電コストは極めて低廉で、無騒音、無公害、CO2排出ゼロ、メンテナンス容易である。定期点検も容易に可能なので、耐用年数は30－50年、稼働は24時間、365日可能である。

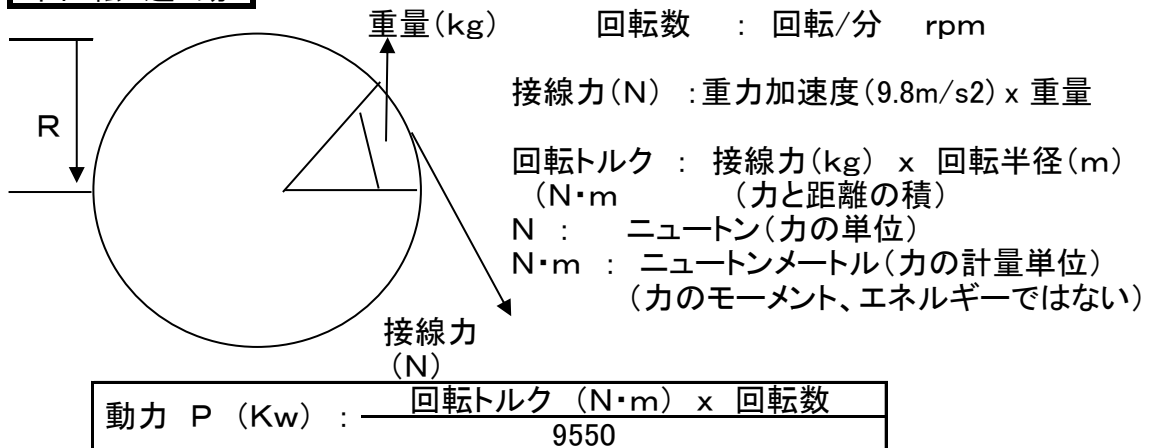
E. 日本国内での分野別、事業種別対応考察。

①	農業・ハウス栽培	冬季におけるイチゴ栽培、高級果実栽培などの温室用。
②	漁業、冷凍冷蔵庫	漁業組合で採用し、冷蔵庫電源、漁船の動力として使用する。
③	住宅、自動車	これはすでに上記に述べた通りです。
④	地方自治体	自治体の経費節減のため、公共施設、市役所他の電源とする。
⑤	スーパー、大型店舗	スーパーの電力の内、冷凍庫、冷蔵灯で全体の66%を占める。
⑥	中小企業工場	FIT賦課金増、経費節減、余剰電力は売電して収益の確保可能。
⑦	病院、福祉施設	常時の室内環境A/C設備の負担増がある。
⑧	災害時の後援電源	現在、日本各地で豪雨、地震災害が多いので後援電源とする。
⑨	ホテル、旅館業	消費電力の内、熱湯沸かし（ガス、重油）が大きな負担である。

※ 将来は、余剰電力はベースロード電源として電力会社に販売でき得る政策対応が可能になる。

F. 極超高効率モーターの物理的継続回転説明。

回 転 運 動



回転装置の説明

回転装置は、扇形の回転体が所定の重量の錘を付けて、軸を中心にして時計回りに回転する。

特徴としては、

- ① 本体軸、及び回転体に特殊機構が内蔵されており、特殊な補助モーターの作用により、制御盤上で制御され、指定の回転数を維持しながら回転を継続させる事ができる。 更には、騒音、振動も無くスムーズに回転する。
- ② 左右に同型の二つの回転体が装備されており、特殊方向転換ギアにより、増速機へと回転力が伝達される。
増速機で所定の回転速度に増幅されて、発電機へと伝達される。
発電機の回転数は、当該発電機の仕様により、1000－1800rpmと変化させる事が出来る。
- ③ 重要な点は、この回転体の回転数を発電機容量に合わせて自由に60－500回/分(rpm)と調整できる。
回転体の動力は、扇型回転体の重量、回転体の半径の長さに比例する。
但し、回転速度は、半径の長さに応じて調整しなければならない。

一つの回転体に、重力のあるポイントと、無いポイントを瞬時に作り出し、そのアンバランスで回転を継続させる事ができる。

二つの同型の回転体が、それぞれアンバランスに回転する事により、回転トルクが増幅され、安定した回転を維持し、継続した動力を得る事ができる。

代理店 G.エネリース東日本

製造元(株) シンプル東京

|

